

平成 22 年 11 月 12 日 記者会見 説明内容（東京）

発表内容：平成 22 年度中間決算について

日 時：平成 22 年 11 月 12 日（金）15 時 30 分～16 時 3 分

場 所：日銀金融記者クラブ（東京）

発 表 者：細谷会長、中村執行役、野村執行役

（以下、平成 23 年 3 月期 第 2 四半期 決算発表時説明資料にもとづく説明です。）

P1. 平成 22 年 9 月中間期のハイライト

平成 22 年 9 月中間期は、一言で言えば引き続き堅実な経営実績を示せたと思います。最終利益は 38 億円の減益になっていますが、最大の要素は、前中間期に一般貸倒引当金の税効果の見直しを行いましたので、その反動で税金費用が大幅に増えたことです。与信費用は他行と同じように、当初計画を大きく下回りました。その結果、連結の当期中間純利益は、817 億円となりました。右側の表の税金等調整前中間純利益は、相当大幅に改善しています。なお、健全な財務体質を堅持しているということについては、後ほどご説明します。

P2. 平成 22 年 9 月中間期の損益概要等

傘下銀行単体合算の表を上からご説明します。資金利益は利鞘が減少したことで厳しい数字となっていますが、投資信託等の販売が改善してきたことにより役務取引等利益が増益、債券等関係損益も他行同様当初計画を上回りました。全体的には課題が少なかった中間期だったと思っています。

P3. 預貸金の状況

貸出については、残念ながら企業の資金需要が弱く、伸び悩みました。しかしながら、法人部門は 3 年ぶりに社内計画を達成し、ようやくソリューション営業力がついてきたことを評価しています。利鞘については減少傾向が続いていますが、底打ち感が出てくると思っています。りそなは住宅ローンのウェイトが高いことから、昨年 1 月に住宅ローンの変動金利を見直した影響で、他行より利鞘の減少幅が大きいと思っています。なお、個人預金等は順調に推移しています。

P4. 重点ビジネスの状況

住宅ローンは引き続き善戦していますが、フラット 35 等のニーズが高く、プロパーの実行額は計画を若干下回っています。ただ、繰上げ返済等が若干少なくなっていることもあり、残高等は計画通り目標を達成しています。個人向けの投資商品は、昨年の上半期は投資信託の販売が苦戦しましたが、今中間期の販売は順調に積み上がってきています。保険商品もようやく力がついてきましたが、最近のマーケット状況が悪いので、これから相当本腰を入れてやっていかなくてはならないと思っています。不動産業務はまだ若干苦戦が続いています。前年実績は上回りましたが、残念ながら計画は下回っています。10 月以降少しずつ不動産の動きが活発化しているので、下期はリカバリーしてくれると期待しています。

P5. 与信費用・開示不良債権の状況、有価証券の評価損益等の状況

与信費用・開示不良債権の状況ですが、与信費用の新規発生が相当減少傾向にあります。右側に、銀行合算・与信費用総額の状況のトレンドをグラフでお示ししていますが、着実に巡航速度に向かっているものの、下期以降は日本経済の先行き、円高等の影響を慎重に見なくてはいけないと思っています。有価証券の評価損益の状況ですが、健全性をしっかりと維持しています。変動利付国債等は時価評価していますので、理論価格で言えばその他有価証券全体で1,200億円の含み益が推計できます。

P6. 公的資金の状況等

公的資金の状況は先週ご説明していますので、後ほど発表後の動きについてお話しします。

P7. 自己資本比率の状況

今年8月に公的資金4,000億円の返済を行ったことで若干比率が低下していますが、平成22年9月末時点で自己資本比率は12.80%、Tier1比率は9.06%となりました。リスク・アセットが大幅に減少し、分母の改善が進みました。貸出のボリュームが5,000億円ほど減少したこともあります。貸出資産の内容も改善したためです。

P8. 平成23年3月期 通期の業績予想

若干の修正はしていますが、5月に公表した年間見通しは変更していません。その理由は、日本経済の先行きが見えないこと、債券市場の潮目がどう変わるか見えないことなどがありますが、先日公表した健全化計画の発射台となっていますので、今回は業績予想見直しを行っていません。当然社内では、これを上回る目標に挑戦していきたいと思えます。なお、「りそな資本再構築プラン」が年度末までに実施された場合の数字及び配当予想について、表の上部に注書きを記載しております。以上が中間決算の概要です。

りそな資本再構築プランについて

11月5日（金）に「りそな資本再構築プラン」を公表いたしました。発表するまでは朝刊等の情報について、お客さま・株主さまから苦情等がございましたが、発表後は鎮まり、11月8日（月）時点ではお問合せは3分の1程度になりました。多くのお客さまは、「りそな資本再構築プラン」を説明させていただくと、満足した受け止め方をされています。また、金融庁にも報告に行きましたが、金融担当大臣、副大臣、長官なども非常にポジティブに受け止めていただき、「頑張ってもらいたい」「是非りそなのビジネスモデルを成功させてほしい」といった激励を受けました。また、お客さまとの懇親会でも、「株価が下がっていることでご心配をおかけしている」ということを挨拶で申し上げましたところ、お客さまからは「頑張ってもらいたい」「返済が見えることは良いことだ」と励ましの言葉を頂きました。社員達も、返済の目処がつくというメッセージが出たことで、これまで以上に頑張らなくてはいけないという反応を示してくれています。格付機関も資本の質がよくなることを、ポジティブに受け止めてくれています。ごく一部の営業店では、お客さまがご預金を解約されたとの報告も受けていますが、店頭でも「りそな、頑張ってもらいたい」といったご

意見を頂いています。今回の件は多くのステークホルダーにポジティブに受け入れられていると思いますが、一方でマーケット、アナリストの反応はバラつきがあり、経営トップとしては悩ましく受け止めています。アナリストレポート等も読ませていただきましたが、まだまだ分かりやすく丁寧に説明できていない面があると反省しています。今後、改めて今回の資本政策の意義、「資本不足対策ではない」ということを説明していかなくてはならないと思っています。サプライズであったということ、メガバンクが行った資本不足を解消する増資のイメージがあること、日本の株式市場で、銀行セクターが投資家を呼び込む新たな材料がないことなども反映していると思ひ、来週以降腰をすえて「りそな資本再構築プラン」の理解を深める努力をしていきたいと考えています。

以 上